令和７年度　シラバス（授業計画）

工芸デザイン科

３年生

共　通　科　目		専　門　科　目	
1	言語文化（選択）	1	課題研究
2	論理国語	2	実習
3	歴史総合	3	製図（選択）
4	数学Ⅱ	4	セラミック工業（セラ）
5	体育	5	デザイン実践（デザ）
6	書道Ⅰ	6	デザイン材料（選択デザ）
7	論理・表現Ⅰ	7	デザイン史
		8	せともの学Ⅱ（選択）

愛知県立瀬戸工科高等学校

科目名	言語文化(選択)	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン科
教科書	標準　言語文化　(第一学習社)			教材等	学習課題集 一日一講文学		
目　標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	・「伊勢物語」 ・「漢詩」 ・「近代の詩」	教科書の内容読解に加えて、以下の内容も行います。 ①考査前の学習課題 ②授業の振り返りシート ③古典文法の小テスト
2学期	・「枕草子」 ・「卒業」 ・「手紙文を書く」	
3学期	・「鼻」 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 授業プリント等 小テスト	定期考査 授業内での成果物等	学習課題等 振り返りシート等 授業内での成果物等

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価します。 定期考査だけでなく、日々の漢字学習や授業、小テストにも積極的に取り組んでください。 また、成果物そのものだけでなく、制作の過程や制作後の振り返りなども評価します。前向きに学習しましょう。

科目名	論理国語	単位数	3	学年	3	学科	全学科
教科書	新編　論理国語　（大修館書店）			教材等	新編　論理国語　学習ノート 現代文グレートラーニング40 意味から学ぶ常用漢字		
目　標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	・「『論理的な人』とはどういう人か」 ・「突然変異と進化の関係」 ・「ウサギの耳はなぜ長い？」 ・「対話の精神」 ・「人口減少社会の到来」	教科書の内容読解に加えて、以下の内容も行います。 ①漢字テキスト課題 週に一回の提出。 ②長期休暇や考査前の学習課題 ③授業の振り返りシート
2学期	・「紙の本はなくならない」 ・「情報化と紙の本のゆくえ」 ・「政治の本質」 ・「年賀状の書き方」	
3学期	・「エネルギー耕作型文明への転換」	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 授業プリント等	定期考査 授業内での成果物等	漢字学習、学習課題等 振り返りシート等

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価します。 定期考査だけでなく、日々の漢字学習や授業にも積極的に取り組んでください。 また、成果物そのものだけでなく、制作の過程や制作後の振り返りなども評価します。前向きに学習しましょう。

科目名	歴史総合	単位数	2	学年	3	学科	全学科
教科書	私たちの歴史総合(清水書院)			教材等	私たちの歴史総合ノート(清水書院) 新詳歴史総合(浜島書店)		
目　標	グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び射会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	第2編　近代化と私たち 第2章　結びつく世界と日本 (1)18世紀までの世界 (2)工業化と世界市場の形成 第3章　国民国家と立憲体制 (1)国民国家と立憲体制 (2)帝国主義とアジア、アフリカの変容	・世界の近代化の波を受け、開国、そして近代化を目指した日本の状況を確認します。 ・世界の宗教革命と市民革命、産業革命のありようから日本を開国させる意義について理解しましょう。 ・1年次の「地理総合」の理解を背景に地政学の観点からの日本の立ち位置を理解しましょう。 ・市民革命・産業革命の進行中の世界を見て、日本の今後の方針がどう決まり、その目標に向かって進んでいく過程と、その結果を理解しましょう。
2学期	第3編　国際秩序の変化や大衆化と私たち 第2章　第一次世界大戦と大衆社会 (1)第一次世界大戦と国際社会 (2)1920年代の世界と大衆時代の到来 第3章　経済危機と第二次世界大戦 (1)国際協調の挫折と2度目の世界大戦 (2)世界大戦がもたらしたもの	・列強の仲間入りをした日本の国際的な位置関係と第一次世界大戦による経済の伸長ぶりを確認しましょう。 ・日本の経済伸長の行き過ぎから第一次大戦の結果における国際秩序の在り方から、次なる大戦への経過を確認し、第三次世界大戦の回避のためにはどう国際社会はあるべきかを考察し、2つの大戦の意義を理解しましょう。
3学期	第4編　グローバル化と私たち 第2章　冷戦と世界経済 (1)冷戦と国際経済 (2)世界経済の拡大と日本 第3章　世界秩序の変容と日本 (1)市場経済の変容と日本 (2)冷戦終結後の変容と冷戦の終結	・冷戦の起きた背景を考え、グルーバル化する社会における問題点を浮かびあげ、SDGsの在り方とともに国際社会の在り方を理解しましょう。 ・温暖化や脱炭素といった問題を地球規模で考える場合の日本の立ち位置を考察し、今後の日本が世界とどう関われるかを考察しましょう。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	課題プリント ノート

担当者より	この科目では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」にやや重きを置いて評価します。 定期考査だけでなく、発表などに対しても積極的に取り組んでください。 またレポートについては、学期に2回程度取り組みます。

科目名	数学Ⅱ	単位数	2	学年	3	学科	全学科
教科書	最新　数学Ⅱ　（数研出版）			教材等	パラレルノート数学Ⅱ　（数研出版）		
目　標	いろいろな式や、図形と方程式及び三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したりすることで、数学のよさを認識し、問題解決の力を育む。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	第3章　図形と方程式 第2節　円 5.円の方程式　6.円と直線 第3節 7.軌跡　8.不等式の表す領域　9.連立不等式と領域	①円の方程式の構造を理解し、式から円の中心の座標や半径を求めることができる。 ②平方完成を活用し、適切に式の変形を行うことができる。 ③円と直線の共有点の座標を導くことができる。 ④動点の座標を式で表すことにより、動点の軌跡を表す方程式を導くことができる。 ⑤不等式の表す領域について答えることができる。
2学期	第5章　指数関数と対数関数 1.指数法則　2.指数関数とそのグラフ 3.対数　4.対数の性質　5.対数関数とそのグラフ　6.常用対数 第6章　微分法と積分法 第1節　微分法 1.平均変化率と微分係数　2.導関数　3.いろいろな関数の微分 4.接線　5.関数の増減　6.関数の極大・極小　7.関数の最大・最小 8.方程式・不等式への応用	①指数法則について、指数部分に扱う数字を有理数まで拡張する。対数について、基本的な概念を理解し、計算を正しく行うことができる。 ②指数や対数で表された関数について、簡単なグラフに表現できる。 ③指数や対数を含む方程式や不等式について解を求めることができる。 ④常用対数の有用性を理解し、活用することができる。 ⑤微分に纏わる概念や計算方法を修得し、簡単な計算を行うことができる。 ⑥微分の概念を活用し、関数の増減や簡単なグラフに表現できる。またそれらを活用し、極大・極小や最大・最小を求めることができる。
3学期	第2節　積分法 9.積分法　10.不定積分の計算　11.定積分 12.定積分の性質　13. 面積	①微分の変形を元にして、積分の変形を身につけ、活用することができる。 ②基本的な積分の計算を正しく行うことができる。 ③積分を活用して、2 つの曲線に囲まれた部分の面積を求めることができる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト	授業中の様子 ノート、問題集、課題の取り組み 定期考査の振り返りシート

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。主体的に取り組む態度についても評価に関わる割合は小さくないため、定期考査や小テストはもとより、課題等の取り組みにも手を抜かず、丁寧に取り組んでください。

科目名	体育	単位数	3	学年	3	学科	全学科
教科書	現代高等保健体育(大修館)			教材等	種目に必要な用具		
目　標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	体つくり運動　（１０単位時間） 選択Ⅰ　（２１単位時間） ・器械運動 ・陸上競技 体育理論　（３単位時間）	集団行動・ラジオ体操第２・体ほぐしの運動・体力を高める運動 器械運動：マット運動、鉄棒 陸上競技：短距離走・リレー、ハードル走、長距離走、やり投げ 【体育理論】 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み
2学期	体育理論　（３単位時間） 選択Ⅱ・Ⅲ　下記から２種目（４２単位時間） ・球技（バレーボール、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、テニス、バドミントン、卓球、ソフトボール） ・武道	【体育理論】 豊かなスポーツライフの創造 球技：応用的技能を修得し、試合に臨む 武道：柔道
3学期	選択Ⅳ　下記から１種目（２６単位時間） ・球技（バレーボール、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、テニス、バドミントン、卓球、ソフトボール） ・ダンス	球技：応用的技能を修得し、試合に臨む ダンス：創作ダンス、現代的なリズムのダンス ※各選択種目は選択者の人数（男女比）等の都合により、開講できない種目があります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	実技テスト　理解度テスト 発表会　技の出来映え 行動観察	行動観察　理解度テスト 実技テスト　レポート課題 発表会	行動観察 長期休業中の課題 発表会

担当者より	この科目では３観点をまんべんなく評価します。 自ら運動に親しみ、楽しく仲間と協力して運動をし、各種目のスキルを上達できるように頑張りましょう。

科目名	書道I	単位数	2	学年	3	学科	全学科
教科書	書Ⅰ（光村図書）			教材等	自作プリント		
目　標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	1　はじめに 中学校までに学習した基本的な点画を確認する。 2　漢字の書について 漢字の五書体の登場時代について知り、書体の特徴と変換を理解する。 3　「孔子廟堂碑」について 書道史における唐の位置づけを確認し、用筆と字形の特徴を理解して臨書する。 4　「九成宮醴泉銘」について 筆者について知り、書風を捉え臨書する。	
2学期	5 行書について 成立過程を確認し、楷書と比較して違いを理解する。 6「蘭亭序」について 背景と文章の概要を知り、鑑賞して運筆や点画の連続を捉える。 7「風信帖」について 背景と文章の概要を知り、鑑賞して運筆や点画の連続を捉える。 8「三筆・三跡」について それぞれの人物について理解し、代表作を鑑賞する。	
3学期	9　仮名の書について 小筆の構え方について知り、使い方に慣れる。 10　平仮名について 由来と表現の特徴を理解して書く。 11　「連綿」について 連綿の法則を知り、筆脈に配慮して書く。 12　漢字仮名交じりの書について 漢字と仮名を交えて、文章の書き方を理解する。	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	課題プリント 定期考査	課題プリント 定期考査	課題プリント 長期休業中の課題

担当者より	この科目は、３つの観点を均等に評価します。 書道は、書くことの知識と技術を学ぶ教科です。 日常生活において実践できるように積極的に取り組んでいきましょう。

科目名	論 理 表 現 Ⅰ	単位数	2	学年	3	学科	全学科
教科書	ATLANTIS Logic & Expression I（三省堂）			教材等	Cheer3000（いいずな書店）		
目 標	話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指し、英語に関する総合的な資質・能力を育成する。						

授 業 計 画

	学 習 内 容	備 考
1学期	Lesson 1 I like to meet new people. 文法：不定詞・動名詞 話題：自己紹介 Lesson 3 How about going shopping? 文法:"How about -ing"表現 話題:アドバイス	教科書の内容に加えて、 ①Cheer を使った単語小テスト ②歌の暗唱テスト ③スピーチ・インタビューテスト も行います。
2学期	Lesson 6 How was your vacation? 文法："How was -?""Did you -?"表現 話題：様々な事象に関する感想や印象を聞く Lesson 10 Who is the funniest person in your school? 文法:最上級 話題:「～の中で一番～」を表現する。	
3学期	Lesson 15 I have a friend who plays the guitar well 文法：関係代名詞 話題：まわりの人々や世界の国々について情報や考えを伝え合う。	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 単語の小テスト	定期考査 パフォーマンステスト （歌・スピーチ・インタビュー）	考査課題プリント 長期休業中の課題 振り返りシートなど

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 定期考査だけでなく、パフォーマンステストに対しても積極的に取り組んでください。 また、授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことも前向きに学習していきましょう。

科目名	課題研究	単位数	3	学年	3	学科	工芸デザイン （セラミック陶芸コース）
教科書	自作プリント等			教材等	教師自作教材		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。 ⑴　工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ⑵　工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ⑶　工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	8つの班に分かれ、各班が1つの課題を設定する。陶芸・セラミック分野の実践的なプロセスによって、課題に対する問題解決を行い、ものづくりについての知識・技術・技能をより深く学ばせる実習を展開する。 ・課題設定、選択 ・プロセス表の作成 ・リサーチ（資料の収集・分析） ・アイデアの展開 （アイデアスケッチ・設計・製図） ・プレゼンテーション	・コンセプトを模索し、発展的に課題を解決する資質、能力を育成する。 ・課題を理解し、自ら適性に合った選択をさせる。 ・課題における問題解決の方法を理解し、適正な計画を立てる。 ・意欲的にリサーチし、資料を効果的にまとめる。 ・あらゆる思考手段を持って、問題解決に向けての発想を縦横に展開することを求める。 ・高い表現技能を身に付け、説得力あるプレゼンテーションやレポート、製品製作を求める。
2学期	課題製作 ・プロセスの検討（計画表作成） ・リサーチ（資料の収集・分析） ・アイデアの展開 （アイデアスケッチ・スタディーモデル） ・プレゼンテーション	各班の課題テーマにそって、コンセプトを重視した計画的に製品を製作し、発展的に課題を解決することを求める。 ・陶芸、セラミックス分野の意義や役割に適したテーマを設定させる。 ・興味関心を持って調査し、資料を効果的にまとめる。 ・現代社会に適したコンセプトを模索し、発展的なアイデアの展開を求める。 ・造形的・視覚的にも完成度の高い製品を製作させる。
3学期	発表会、講評 KDⅡ展の展示とまとめ ・搬入、搬出の準備 ・展示（ディスプレイ） ・まとめ（製品等の整理整頓・レポート集の作成）	各班の製品やレポートの効果的な発表や展示の方法を考える。また効率よく搬入、搬出ができるよう準備させる。 搬入等では全体を把握し、協力して行動することを望む。また、講評で製品製作について客観的に理解し、反省点等をまとめる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	授業中課題 取組姿勢の観察	授業中課題 プリント・振り返りシートなど	取組姿勢の観察 プリント・振り返りシートなど

担当者より	課題を自ら見付け、問題を主体的・計画的に解決する意欲と努力を持って取組んで下さい。 提出課題（製品）は、コンセプト、オリジナリティ、高い完成度を有することを期待します。また、提出物や作品の提出期限は、厳守して下さい。 KDⅡ展に出品します。プレゼン・発表会・講評を受け進路等につなげます。 この科目では、3観点を均等に評価します。 また、授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。

科目名	課題研究	単位数	3	学年	3	学科	工芸デザイン（デザインコース）
教科書	自作プリント等			教材等	教師自作教材		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。 ⑴　工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ⑵　工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ⑶　工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	3つの分野（3コース）から、生徒各自が1つを選択し、その分野の実践的なプロセスによって、デザイン・造形についての知識・技術・技能をより深く学ばせる実習を展開する。 ・課題設定、選択 ・プロセス表の作成 ・リサーチ（資料の収集・分析） ・アイデアの展開 （アイデアスケッチ・設計・製図） ・プレゼンテーション （作品制作・実験）	コース…①企画②CAD③エキスパート ・デザインコンセプトを模索し、発展的に課題を解決する資質、能力を育成する。 ・課題を理解し、自ら適性に合った選択をさせる。 ・デザインプロセスを理解し、適正な計画を立てる。 ・意欲的にリサーチし、資料を効果的にまとめる。 ・あらゆる思考手段を持って、発想を縦横に展開させ、独創的なアイデアとすることを求める。 ・高い表現技能を身に付け、説得力あるプレゼンテーションまたは作品を要求する。
2学期	デザイン展に展示する作品の制作 ・個人テーマの設定 ・プロセスの検討（計画表作成） ・リサーチ（資料の収集・分析） ・アイデアの展開 （アイデアスケッチ・スタディーモデル） ・作品制作（プレゼンテーション）	各自のテーマにそって、デザインプロセスを重視した計画的に作品を制作し、発展的に課題を解決することを要求する。 ・デザインの意義や役割に適したテーマを自らの適正にあった設定をさせる。 ・興味関心を持って調査し、資料を効果的にまとめる。 ・現代社会に適したコンセプトを模索し、発展的なアイデア・デザイン展開を求める。 ・造形的・視覚的に完成度の高い作品を制作させる。
3学期	KDⅠ展の展示とまとめ ・搬入、搬出の準備 ・展示（ディスプレイ） ・発表、講評会 ・まとめ（作品等の整理整頓・作品集の作成）	各自の作品の効果的な展示方法を考え、また効率よく搬入、搬出ができるよう準備させる。 ・搬入等では全体を把握し、協力して行動することを望む。 ・講評会では作品制作について客観的に理解し、反省点等をまとめる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	授業中課題 取組姿勢の観察	授業中課題 プリント・振り返りシートなど	取組姿勢の観察 プリント・振り返りシートなど

担当者より	この授業では3観点を均等に評価します。課題を自ら見付け、問題を主体的・計画的に解決する意欲と努力を持って取組んで下さい。 提出作品は、デザインコンセプト、オリジナリティ、高い表現力と感性を有することを期待します。 提出物や作品の提出期限は、厳守して下さい。 KDⅠ展に出品し、プレゼン・講評を受け次作や進路につなげます。また、授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。

科目名	実習	単位数	6	学年	3	学科	工芸デザイン (セラミック陶芸コース)
教科書	自作プリント等			教材等	教師自作教材		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。 ⑴　工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ⑵　工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ⑶　工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	3つの分野(3コース)の分野に分かれ、その分野の実践的なプロセスによって、陶芸・セラミックスについての知識・技術・技能をより深く学ばせる実習を展開する。 技能養成を目標とする課題 ・技能の習得 ・実験、作品制作	コース ①立体造形 ②ろくろ ③陶磁器デザイン 選択した陶芸分野の技術・技能をより専門的に、より深く習得する。
2学期	KDⅡ展に展示する作品の制作 ・個人テーマの設定 ・プロセスの検討(計画表作成) ・リサーチ(資料の収集、分析) ・アイディアの展開 ・作品制作	陶芸および、工芸、デザイン分野の技術・技能をより専門的に、より深く習得する。 ・オリジナル性に留意し、目的に応じたアイディアの展開ができる。 ・高い技能、表現力を身に付け、魅力および説得力ある作品を制作できる。
3学期	KDⅡ展の展示とまとめ ・搬入、搬出の準備 ・展示(ディスプレイ) ・まとめ(製品等の整理整頓・作品集の作成)	各自の作品の効果的な展示方法を考えさせ、また効率よく搬入、搬出ができるよう準備する。 ・搬入等では全体を把握し、協力して行動できる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	成果物 各コースでの課題 取組姿勢の観察 振り返りシート	成果物 各コースでの課題 取組姿勢の観察 振り返りシート	成果物 各コースでの課題 取組姿勢の観察 振り返りシート

担当者より	この科目では3観点を均等に評価します。 1・2年生で培った技術を生かし、積極的に行動しましょう。課題を計画的に具体化する努力と、自ら主体的・計画的に解決する意欲を持って取組んで下さい。 提出作品は、コンセプト、オリジナリティ、高い完成度を有することを期待します。また、提出物や作品の提出期限は、厳守して下さい。 KDⅡ展に出品します。プレゼン・発表会・講評を受け進路等につなげます。 どんなことにも前向きに学習していきましょう。

科目名	実習	単位数	6	学年	3	学科	工芸デザイン (デザインコース)
教科書	自作プリント等			教材等	教師自作教材		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。 ⑴　工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ⑵　工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ⑶　工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	4つの分野(4コース)から、生徒各自が1つを選択し、その分野の実践的なプロセスによって、デザイン・造形についての知識・技術・技能をより深く学ばせる実習を展開する。 技能養成を目標とする課題 ・課題設定、選択 ・プロセス表の作成 ・リサーチ(資料の収集・分析) ・アイデアの展開 (アイデアスケッチ・設計・製図) ・プレゼンテーション (作品制作・実験)	コース ①プランニング(デジタルを使用した企画作品) ②コンポジション(アナログ描画での平面作品) ③スカルプチャー(プロダクト及びフィギュア) ④インテリア(木工での立体作品) ・デザインコンセプトを模索し、発展的に課題を解決する資質、能力を育成する。 ・デザインプロセスを理解し、適正な計画を立てる。 ・意欲的にリサーチし、資料を効果的にまとめる。 ・あらゆる思考手段を持って、発想を縦横に展開させ、独創的なアイデアとすることを求める。 ・高い表現技能を身に付け、説得力あるプレゼンテーションまたは作品を要求する。
2学期	デザイン展に展示する作品の制作 ・個人テーマの設定 ・プロセスの検討(計画表作成) ・リサーチ(資料の収集・分析) ・アイデアの展開 (アイデアスケッチ・スタディーモデル) ・作品制作(プレゼンテーション)	各自のテーマにそって、デザインプロセスを重視した計画的に作品を制作し、発展的に課題を解決することを要求する。 ・デザインの意義や役割に適したテーマを自らの適正にあった設定をさせる。 ・興味関心を持って調査し、資料を効果的にまとめる。 ・現代社会に適したコンセプトを模索し、発展的なアイデア・デザイン展開を求める。 ・造形的・視覚的に完成度の高い作品を制作させる。
3学期	KDⅠ展のまとめ ・搬入、搬出の準備 ・展示(ディスプレイ) ・発表、講評会 ・まとめ(作品等の整理整頓・作品集の作成)	各自の作品の効果的な展示方法を考え、また効率よく搬入、搬出ができるよう準備させる。 ・搬入等では全体を把握し、協力して行動することを望む。 ・講評会では作品制作について客観的に理解し、反省点等をまとめる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	授業中課題 取組姿勢の観察	授業中課題 プリント・振り返りシートなど	取組姿勢の観察 プリント・振り返りシートなど

担当者より	この科目では3観点を均等に評価します。課題を自ら見付け、問題を主体的・計画的に解決する意欲と努力を持って取組んで下さい。 提出作品は、デザインコンセプト、オリジナリティ、高い表現力と感性を有することを期待します。提出物や作品の提出期限は、厳守して下さい。 KDⅠ展に出品し、プレゼン・講評を受け次作や進路につなげます。また、授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。

科目名	製図(選)	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン科
教科書	デザイン製図(実教出版)			教材等	基礎製図検定問題集 自作教材		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3)工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	製図に関する基礎的な知識 ・製図の規格 ・寸法補助記号 ・投影図、立体図のかき方 ・勾配、テーパ ・ねじ ・歯車 CAD ソフト「Auto CAD」の基本操作	・トレース技能検定、基礎製図検定、初級 CAD 検定の問題などを参考に、知識を生かした実践的な問題解決の方法について学ぶ。 ・CAD ソフト「Auto CAD」を用いて、コンピュータによる作図について学ぶ。
2学期	製図に関する基礎的で実践的な技能 ・簡単な作図 ・実物を計測し、図面を作図する。 CAD ソフト「Rhinoceros」の基本操作	・各自のテーマにそって手描きによる作図や CAD による作図などの実践的な問題解決を行う。 ・CAD ソフト「Rhinoceros」を用いて、3D データの作図の基礎について学ぶ。
3学期	コンピュータを用いた応用的な作図 1年間のまとめ	・1年間の間に学んできた内容から、各自の興味関心のある内容について調べ、自分自身で適切な課題を設定する。 ・自分自身の1年間の学習内容を客観的に理解し、反省点等をまとめる。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	授業中課題の完成度 取組姿勢の観察など	授業中課題の操作方法 作品のデータ、印刷物など	取組姿勢の観察

担当者より	この科目は3観点を均等に評価します。日頃の学習活動を大切にしています。授業を理解しないと課題ができないので、十分に理解するよう努めましょう。また授業時間にできなかった問題は宿題とする場合があります。分からないところは、その都度担当教員まで質問し理解しましょう。授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことも前向きに学習していきましょう。

科目名	セラミック工業	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン (セラミック陶芸コース)
教科書	セラミック工業(実教出版株式会社)			教材等	なし		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)セラミックについて社会や生活との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。 (2)セラミックにより解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。 (3)セラミックによる豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	オリエンテーション	授業への取り組み　セラミック工業について
	セラミックス・陶磁器	材料と科学技術 セラミックスとは何か 陶磁器の概要
	ほうろう	ほうろう工業の概要 ほうろうの分類 ほうろうの製造工程 素地金属 釉 施釉(くすり掛け) 乾燥と焼成
2学期	ほうろう	ほうろうへの装飾方法 ほうろう製品の欠陥とその対策 各種のほうろう
	耐火物	耐火物工業の概要 耐火物の原料 耐火物の製造工程 各種の耐火物 耐火物の用途
	セメント	セメント工業の概要 セメントの製造法
3学期	セメント	セメントの化学と性質 各種のセメント セメントの用途

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 課題プリント 小テスト	定期考査 授業プリント	定期考査 ファイル 長期休業中の課題

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 専門性のある科目です、自ら教科書などで調べ、わからない時はよく質問してください。 定期考査だけでなく、プリントやファイルなどの提出物を丁寧に取り組み、期限を守ることが重要です。 学習の取り組みをその時間やその日で完結させることが大切です。

科目名	デザイン実践	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン科 (デザインコース)
教科書名	デザイン実践（実教出版）			使用 教材等	教師の自作教材		
目　標	デザインに関する知識を習得し、実際に創造し応用する能力と態度を育てる。また、デザインにより解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。						

授　業　計　画

	学習内容	備　考
1学期	・工業におけるデザイン	・デザインのはじまりと意義を理解する。 ・デザインの領域とそれぞれの領域について人や環境との関わりを学習する。 ・システマティックな発想方法を学ぶ。 ・マーケティングやニーズ、企業におけるデザイン活動を学ぶ。
2学期	・デザインと創作活動 ・ビジュアルデザイン	・発想法、アイデア生成について実践を通して学ぶ。 ・デザインに必要な表示、材料と用具を学習する。 ・観察と表示、表示から表現へのデザイン活動に重要なプロセスを学ぶ。 ・写真を通して画面の構成やデジタル画像の基礎を学ぶ。 ・ポスターの企画を通して、コンセプトの構築や発想について学ぶ。
3学期	・環境デザイン	・社会状況、デザインの役割を理解する。 ・持続可能性、環境デザインの学習をすることで、デザイン活動について深みを持たせる。 ・１年で学習したことを振り返り、デザインの諸活動として大切なことをまとめる。

主な評価法担当者から一言	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	定期考査 プリント 取組姿勢	定期考査 プリント アイデアスケッチ	取組姿勢 プリント 長期休業中課題

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 デザインと社会とのかかわりについて学びます。授業以外での日常生活で社会や環境に目を向けてください。長期休業中課題においては一定の成果に達するまで繰り返し行うものもあります。期日を守り粘り強く取り組んでください。

科目名	デザイン材料(選)	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン科 (デザインコース)
教科書	デザイン材料(海文堂出版)			教材等	教師の自作教材		
目　標	デザイン材料及び加工に関する知識と技術の習得を目指す。使用目的に応じて適切な材料を選択できるよう、材料に対しての理解を深める。						

授　業　計　画

	学 習 内 容	備　　考
1学期	第1章　総説 1節　私たちの生活と材料 2節　材料の種類 ・　第1　～　第5 3節　優れたデザインを生むために ・　第1　～　第8 第2章　無機材料の特性と加工技術 1節　金属 ・　第1　～　第7 2節　セラミックス ・　第1　～　第3	材料とは、材料ごとに異なる特性を持っています。各材料の特性や加工方法を知ることで、製品の安全性や機能面の探求、製造コストの把握を行うことができるようになります。 デザイン材料を通して、様々なデザイン・コストに見合う材料の選択が自分自身の知識に基づいて判断できるよう、材料ごとの特徴を把握しましょう。 デザイン材料では自作教材を用いた授業を行います。
2学期	3節　ガラス ・　第1　～　第4 第3章　有機材料の特性と加工技術 1節　プラスチック ・　第1　～　第5 2節　木材 ・　第1　～　第4	
3学期	3節　その他の有機材料 ・　第1　～　第3	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 教師の自作授業プリント	定期考査 長期休業中の課題	取り組み姿勢の観察 長期休業中の課題 教師の自作授業プリント

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 な製品を開発する上で、材料とその加工方法は重要です。コストや製造方法を考えたデザインを行うために、材料の特性や種類を把握しましょう。 授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。

科目名	デザイン史	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン科
教科書	デザイン史　(東京電機大学)			教材等	教師自作教材		
目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、造形とデザインの鑑賞により創造的かつ効果的なデザインに必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) デザインについて歴史的な背景を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 歴史的なデザイン事例からデザインに関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想をたて解決する力を養う。 (3) 歴史的なデザイン事例と造形方法を踏まえて独創的にデザインする力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	西洋のデザイン 1 近世 バロック ロココ 19世紀 2 近代 近代デザインの始まり	・デザイン史を学ぶにあたり、大まかな流れを理解する。 ・近世の生活の仕組みを知り、歴史的背景や発生した造形について基礎的な知識を理解する。 ・近代の生活の仕組みを知り歴史的背景やデザイン、建築様式について、基礎的な知識を理解する。
2学期	2 近代 近代デザインの成立と展開 現代のデザイン 1産業の復興と現代デザイン活動の始まり	・近代の生活の仕組みを知り歴史的背景やデザイン、建築様式について、基礎的な知識を理解する。 ・現代のデザインにおける歴史的背景や、建築様式について、基礎的な知識を理解する。
3学期	2産業の発展とデザイン 3現代デザインの諸問題	・産業の発展とデザインについて、基礎的な知識を理解する。 ・デザインの成り立ちを知り、歴史的背景やそれにかかわる作品について基礎的な知識を理解する。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査 プリント・振り返りシートなど	定期考査 授業中課題 プリント・振り返りシートなど	取組姿勢の観察 長期休業中の課題 プリント・振り返りシートなど

担当者より	「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置き評価します。デザインの成り立ちや展開について、その歴史的背景も踏まえながら学んでいきます。美術作品や建築様式を学ぶことを通して、現代との違いを見出しデザインにおける多角的な視点を育みましょう。定期考査だけでなく、提出物や提出期限に対しても積極的に取り組んでください。またグループ活動や調べ学習など、授業中におけるさまざまな活動も評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。

科目名	せともの学Ⅱ（選択）	単位数	2	学年	3	学科	工芸デザイン
教科書	瀬戸焼ハンドブック			教材等	プリント、powerpoint 資料		
目　標	地元の伝統産業である「瀬戸焼」を中心に、せとものの歴史、知識や技術の学びを通し、我が国における伝統産業の社会的意義や役割を理解させ、新たな次代を切り拓く産業人の育成を目指す。また、せともものを題材とした、グループワーク等を取り入れた実践的学習により、合理的かつ創造的に自ら考え解決する力を身につけ、伝統産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む姿勢と態度を養う。						

授　業　計　画

	学　習　内　容	備　　考
1学期	1　「せともの学」を学ぶにあたって 2　瀬戸焼の歴史 　生活のなかのやきものについて理解を深める 3 歴史のまとめ 　日本遺産の認定と展開	授業への取り組み 生活のなかのやきものについて理解を深める 日本遺産の認定と展開 ・日本遺産について（文化庁） ・瀬戸市地場産業振興ビジョン ・瀬戸焼ブランド戦略策定・管理 ・瀬戸焼ランデヴープロジェクト
2学期	4 瀬戸の町を知る 　瀬戸市地場産業振興ビジョン 5 瀬戸の産業未来を考える 　（グループ学習） 6 陶芸概論 　陶芸の領域と射程 7 やきもの研究Ⅰ 　（グループ研究）	グループ学習 ・産業と観光 ・地域活性化 ・陶都再生 ・クリエイターの役割 発表 陶芸の領域と射程 ・産業と芸術 ・せともの祭りの雨伝説
3学期	8 やきもの研究Ⅱ 　（個人研究） 「せともの」に関する発表	地域の産業としての「せともの」 研究の展開 発表の練習　班内での協議 グループ発表

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	レポート 課題プリント	レポート 課題プリントなど 発表	レポート 長期休業中課題 発表

担当者より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 専門性のある科目です、自ら教科書などで調べ、わからない時はよく質問してください。 課題、ノートなどの提出物を丁寧に取り組み、とくに期限を守ることが重要です。 学習の取り組みをその時間やその日で完結させることが大切です。